

「天気」投稿および内容案内

「天気」には会員の多様な要望に応えるために、いろいろな欄が設けられています。編集委員会では、投稿規定を補足して投稿者の便を図るため、「天気投稿および内容案内」を年1回掲載し、各欄の内容について詳細に説明することになっています。

1. 投稿規定第1項に本誌の内容の主な分類を挙げてありますが、投稿案内では、現在本誌に掲載されている主な欄の説明をまとめて示してあります。

2. 投稿原稿は、横書き原稿用紙(400字あるいは500字詰)に手書きするか、ワープロを使用して下さい。ワープロ原稿の場合、読みやすいように行間をあげ、白紙に横書きで1頁に24字×22行で印刷して下さい。

3. 印刷のCPS化に伴い、投稿原稿をフロッピーディスクで受け付けます。後述の提出要領(暫定)を参照して提出してください。

4. 規定の頁数を超えた場合は特に編集委員会が事前に了承している場合を除き、原則として印刷1頁あたり10,000円の実費を請求します。

5. 「天気」の発行期日を守るために、原稿は発行日の2カ月前に印刷所に入稿しなければなりません。編集委員会で原稿の整理をする時間がその前に少なくとも1週間は必要です。ただし、ごく短いお知らせなどの記事に限って、発行前月の月末まで受け付けています。

論文：原則として未発表の原著論文に限ります。内容は気象に関係がある報文で、現象についての新しい知見、その説明・理論のほか、関連分野への気象学の応用や気象技術に関するもの、珍しい現象の報告など幅広いものを含みます。長さは原則として図表を含めて印刷8頁以内とします。記述は冗長にわたらぬよう、簡潔に要領よくまとめて下さい。

短報：速報性を要する研究成果の概要、または比較的簡単な小論文です。長さは原則として図表を含めて印刷2頁以内とします。

解説：気象学の最新の成果や関連する分野の興味深い話題を、わかりやすく説明するものです。学問が先鋭化してきた現在、自分の専門以外の分野について、その最新の成果を逐一フォローしていくのは大変なことです。「解説」は、これらの情報を手軽に得ることを目的としており、専門分野の最新の状況や話題を他の分野の方々が十分に理解できるように、やさしく、わ

かりやすく説明することを念頭に執筆していただきます。

「解説」は原則的には編集委員から執筆をお願いしておりますが、会員からの投稿原稿についても掲載しております。今後も会員の皆様からの投稿を歓迎致しますのでよろしくご協力をお願い致します。

気象談話室：「論文」や「解説」とは異なり、気楽に読める読物とします。気象学的なものの見方・考え方についての示唆に富んだ話、一般の普及書や教科書には入りきらないような様々な現象の見方・考え方、「コリオリの力とは何か?」など説明の難しい問題に対する答えや考え方、「オゾン・ホール」のような最近のトピックに関する説明、小・中・高校生や一般の方々の研究例の紹介など、広く多様な題材を扱います。

執筆の原則は次の通りです。①高等学校卒業程度の学力で読める平易な記事とし、②一つの記事は印刷頁4頁以内とし、長いものについては連載とする。③引用文献は原則として避け、その記事だけで理解できるようにし、④大学で学ばないと分からないような学術用語は少なめに、用いるときは正確かつ平易な説明をつける。⑤気象学研究、気象業務等に特有な用語は用いない。

この欄の原稿は原則的には教育と普及委員会で取り扱っています。

シンポジウム：名前の通り、国内・国外で開催されたシンポジウムの報告を扱う欄です。これまでは、シンポジウムの発表内容に立ち入ったものから参加体験記までいろいろな角度からの報告が記事になっています。特に、国外で開催されるシンポジウムは、最新の研究情勢を知る上で貴重な情報源のひとつと考えられますので、参加された方の積極的な投稿をお願い致します。

会員の広場：会員の広場は、学会の運営や学会誌に対する意見発表、相互の情報交換の欄です。読者自身が作る欄ですので、会員からの自由投稿で、原則としてそのまま掲載します。情報交換のために特集企画を組むこともありますので、その場合には原稿の執筆をお願いすることがあります。数行程度の短い意見や提

案ももらさず掲載致しますので、特に若い方、多忙な方も、気楽にご意見をお寄せ下さい。新聞の投稿欄のような、活発な意見交換の場になるように会員諸氏のご協力をお願い致します。

支部だより：支部だよりでは、地区編集委員等より投稿される原稿を、ほぼそのまま掲載しています。現在は、発表内容の簡単な紹介を含めた地区研究会の報告の投稿が多いのですが、内容その他は特に制限していませんので、支部による特色がでています。研究会等の開催の案内は、開催前に掲載するようにしますので、ご協力下さい。

質疑応答：読者から寄せられた質問に対し、編集委員会が適当な方に依頼して答えていただくものです。気象に関係したものならどんな質問でも受け付けます。

研究会報告：大会の前後等に開催される各種研究連絡会の報告や、年に数回、定期的にかかっている月例会などの報告を掲載する欄です。コンピーナーの方には、要領よくまとめた報告の投稿をお願いします。

新用語解説：気象関係の最新の用語について、1頁程度の簡単な説明を掲載します。読者から説明希望のあった用語についても、他の会員の方に説明をお願いして掲載します。

NEWS：気象庁長期予報課の会員に原稿を依頼して、「月平均 500 hPa 天気図」と「世界の天候」を掲載しており、2月分が4月号に掲載されるなど、速報性に富んだものとなっています。今後も速報性に富んだ、各種の気象資料を掲載する予定です。

WCPの窓：「GARPの窓」を引き継いで、第28巻(1981年)から始まったコーナーで、WCPに関する国内・国外の委員会・研究会の報告が主な記事です。WCPは、会員がその成功に向けて活躍するべき柱のひとつです。WCPに関するニュース、意見交換などの投稿も歓迎しています。

研究機関めぐり：研究機関の素顔は意外と知られていないのが現状です。さらに最近の気象学の発展とあいまって、研究機関の活動は多様化、専門化の道をたどっています。本欄の目的は、このような研究機関の活動状況を紹介することにあります。内容は研究機関のユニークな点、研究業績の中で特筆すべきハイライト、将来どのような研究部門をのぼしたいか、研究機関への入り方(採用方法)などで、研究を志す人たちにも参考となるものです。執筆にあたっては事務的・総花的な紹介ではなく、執筆者個人の目でみた紹介を

お願いしています。

素顔'94：この素顔シリーズは、日本国内の学会では会えない主に外国で活躍している気象学の研究者の素顔を紹介しようとするものです。各大学・研究所でこのような研究者の訪問を受けた時には、是非とも interview を試みて下さい。普通ではうかがい知れない素顔を見つけられることでしょう。

情報 File：「天気を情報誌にしよう」というのが編集部の合言葉です。皆さんが知っているちょっとした情報は、ひょっとすると宝の山の入口かも知れません。皆さんの持っているそれぞれの情報を会員全員のものにしましょう。

最近の研究から：会員の皆さん、毎日、研究に仕事を多忙のことと思います。ところで、何か面白いものを見つけた時、誰かに話してみたいという思いにかられたことはありませんか？ 学会発表や論文にする前には、うきうきする気分で話をしてみたいと思ったことはありませんか？ 「最近の研究から」は、こんな会員の気分を満足するために設けました。「軽やかに、研究の話をしましょ！」

本だな：本欄は、特定の書評担当者に依頼しているわけではなく、会員の自由な投稿(自薦、他薦を問いません)が基本です。また、これとは別に、編集委員会(学会)宛に書評依頼または寄贈があった場合、委員会が適当と判断したものについて適任と思われる方に依頼しています。

海外だより：海外滞在、外国出張の際の印象・雑感などを肩の凝らない形式で寄稿していただいています。大部分の会員は、海外の研究環境などを容易に知り得ない状況にあります。フレッシュな情報の提供をお願いします。

カラーページ：本欄は、珍しい現象や典型的な現象、情報処理技術の高度化に伴う現象の表示例、これまであまりなじみのない観測装置等を、隔月で、カラー写真により紹介するコーナーです。カラーでの掲載が必要なもので、「天気」にふさわしいものであれば内容は問いません。なお、本欄には写真、題名(英訳付)、1600字程度の簡単な説明文(図や表の併用も可)が必要ですが、写真だけの提供も歓迎します。

また、論文や解説の写真等で著者がカラーでの掲載を希望し、編集委員会も掲載を認めたものについては、無料で「カラーページ」欄に掲載いたします。さらに、著者の負担で論文や解説にカラー写真を掲載するものについては、従来通り随時受け付けております。

学位論文紹介：気象学・気候学・大気物理学等に関する大学院博士論文、修士論文を紹介します。各大学に編集委員会から照会を行います。会員からの自主投稿も受け付けます。原稿の記入項目は、①大学名、②研究科名、③論文題目です。対象は1993年度で、締切は5月31日です。

90年代の気象学への手引：気象学を勉強したいが、どのような本をどのように勉強したらよいか、具体的な方法を教えてほしい、という「天気」読者の声に応え、現代の気象学を自らの意志で新たに学ぼうとする、気象官署等の気象に関する職場の職員や大学の学部学生等の会員に役立つための入門講座で、第一線の研究者に原稿を依頼しています。気象学の専門知識が少ない読者にも分かりやすく、なおかつ最先端の様子が手に取るようにわかる魅力的な手引を目指しています。内容は、参考文献として教科書・参考書等の書籍、最新の情報が掲載される国際学会等の予稿集、各分野の進展を解説したレビュー、時代を画するような論文などを紹介しながら、1980年以降の各分野の進歩を解説し、読者に現在何が分かっているかが分かっていないのかを知ってもらう、というものです。

その他：以上の欄のいずれにもあてはまらない投稿は編集委員会にご相談下さい。

フロッピーディスク原稿の提出要領（暫定）：

- (1) フロッピーディスク (FD) の提出方法
- ①論文・解説など査読を伴う原稿のFDの提出については、原稿が受理された時点でFDを編集委員会に送付する。
 - ②査読を伴わない原稿についても、担当編集委員が改稿を求める場合があるので、最終原稿提出時にFDを添えて編集委員会に送付する。
 - ③FD提出時には必ずプリントアウトした原稿を添える。打ち出しはA4の白紙（縦置き：感熱紙の使用は不可）を使用し、和文横書きで24字×22行とする。
- また、担当者が読みやすいように、出力原稿には必要な飾り文字などを使用し、必要な割付情報（例：級数指定・書体指定・その他）も朱書きで明示する。
- ④FD提出時に、ラベルに原稿の表題・著者名および所

属機関・文書ファイル名、および文書作成に使用したワープロの機種名（またはパソコン機種名とワープロソフト名）を明記する（例：リコー REPORT 5300 Series, 一太郎 ver 4.3）。

⑤使用FDは3.5インチまたは5インチ、記録密度は2DDあるいは2HDのいずれかとする。

(2) 提出するFD文書ファイルの作成方法

- ①提出するFD文書ファイルは、文章の段落に改行マークを入れる以外は、日本語は全角、英数字は必要なもの以外は全て半角を使用してベタ打ちし、上付き・下付きなどの飾り文字や倍角文字等は使用しない。句読点は「、。」「，」のどちらを使用しても良い。
- ②ワープロにない文字や記号は空白にしておき、プリントアウトした原稿に朱書きで明示する。
- ③罫線は変換できないので、提出するFD中では罫線を使用せず、データのみ入力する。

(3) その他

- ①提出されたFDは印刷終了後、図・表の原稿と共に著者に返却する。
- ②今回導入するCPSは国産のワープロおよびワープロソフトにはほとんど対応可能であるが、現時点ではマッキントッシュおよびIBMのワープロソフトで作成した文書には対応出来ない。その場合は従来通り、打ち出し原稿および図表のみを提出する（ただし、マッキントッシュあるいはIBM系列のパソコンで作成したMS-DOS形式のテキストファイルは受付可能である）。
- ③手書き原稿については従来通りの規定で受け付ける。

別刷り：別刷りは表紙無し30部までが無料となっています。それ以上は実費負担となります。別刷り代の計算方法は以下になっています。

「別刷り料金」＝ページ数×15円×部数＋表紙代金60円×表紙つき部数（表紙つきの無償30部を御希望の場合は30部の表紙代のみを負担願います）

カラーページ料金：論文や解説の写真などで、著者の負担でカラー写真を掲載する場合の料金は以下のようになっています。

1ページあたり129,000円（1993年度実績）